

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 6月 1日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22530993

研究課題名（和文） 大学生の学術的文章作成授業におけるフィードバックの効果を第三者評価により測定する

研究課題名（英文） Assessing the effectiveness of the feedback given to students who took an Academic Writing Course at a University

研究代表者

佐渡島 紗織（SADOSHIMA SAORI）

早稲田大学・留学センター・准教授

研究者番号：20350423

研究成果の概要（和文）：早稲田大学における「学術的文章作成」授業（主に初年次生対象、領域横断内容、eラーニング、大学院生が個別フィードバックする、全8回1単位）の成果調査を行った。三観点五段階の学術的文章評価ルーブリックを開発し、授業を全回視聴し課題をすべて提出した履修者707人の、初回提出文章と最終回提出文章を評価し差を調査したところ、文章作成力が有意に伸びていることがわかった。また、付与されたコメントを分類するためのコードも開発し、コメントを分類した。文章作成力を伸ばした履修者とあまり伸びなかった履修者との間で、付与されたコメントの種類に有意差を認めることはできなかった。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to assess the outcome of an academic writing course held at Waseda University. This eight week 1 unit e-learning course was designed in order to introduce academic writing to mainly freshmen students across the discipline. One-by-one feedback by trained graduate students was given to students throughout the course. By using a rubric we developed to evaluate the students' writing, 707 students who audited the video every week and submitted all the papers significantly developed their writing abilities. The comments given by the graduate students were corded to see the correlation between the students' progress as well. No significant correlation was found.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2012年度	300,000	90,000	390,000
2011年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
総計	2,300,000	690,000	2,990,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：学術的文章作成指導、大学初年次、eラーニング、大学院生による指導、個別指導、文章作成力、文章フィードバック、文章評価ルーブリック

1. 研究開始当初の背景

(1) 個別指導を行う基盤教育

早稲田大学では、全学初年次生を対象とした基盤教育三科目科目の設置が進められていた。口語英語、数学論理、学術的文章作成で

ある。この中で、学術的文章作成の授業は、2010年より開始された、8週間1単位の分野横断型の科目である。多くの学生に同一内容を提供するためにフル・オンデマンド形式で開講された。しかし、文章課題については個別指導を行うこととした。すなわち、専門的な訓練を受けた大学院生が毎週出される文章課題に、個別にコメントと評価点を付けて返送する。

(2) 大学院生が指導に携わる体制

指導に携わる大学院生を大学院授業で育成する仕組みを整えた。大学院生は、全学の研究科から募集し、対面15週間の授業で文章技法を学ばせた。そして優秀な成績を修めた大学院生に指導員となる資格を与えた。

指導についての大学院生たちには階層的なミーティングに参加させ、指導の質を保つ仕組みを整えた。すなわち、教員によって選出されたベテラン指導員が、8人～10人の指導員からなるグループを担当し、評価に関するミーティングを週1回行なう。さらに、ベテラン指導員たちが授業担当教員と週1回のミーティングで会い、指導員たちの様子を伝える。これら二つのミーティングを8週に亘って交互に行なう。これによって、「教員-ベテラン指導員-指導員-履修者」相互で、情報が円滑に交換された。

2. 研究の目的

この2008年度より開講された学術的文章作成授業の成果を明らかにすることが目的であった。次の点を調査した。(1)履修者の文章作成力は伸びたか。(2)(1)は学年で異なるか。(3)履修者の文章作成力の伸びは、文章作成の好き嫌い、文章作成の得意苦手、と関連があるか。(4)指導者によるコメントをどのように分類することができるか。(5)履修者記述のコメントはどのような内容か。

(6)指導者によるコメントの種類と履修者文章作成力の伸びにはどのような関連があるか。

3. 研究の方法

(1) 分析対象者

2009年度秋学期、2010年度春学期、2010年度秋学期の全履修者のうち、全8回とも授業を視聴し、全課題文章を提出した者の初回課題文章と最終回課題文章、計1414編を第三者評価者により評価した。2009年度秋学期履修者に対しては、途中回の課題文章も評価した。

(2) 履修者の属性

また、授業前後に履修者に対してアンケート

調査を行い、文章作成が好きか嫌い、得意か苦手かという属性を調査した。コメントの分類は、2009年度秋学期履修者の文章に対して行なった。

(3) 文章評価

文章の評価は、米国の評価方法を大学日本語学術的文章用に修正し、〔緻密さ〕〔構成〕〔内容〕の3観点6段階ルーブリックで行なった。練習を積んだ評価者がペアを組み、各人が評価点を付けたあと、二人でつき合わせて、点数が2点以上開いた場合には話し合いで点数を寄せるという方法をとった。

(4) コメントの分類

付与されたコメントの分類は、予めコードを特定し、訓練を受けた作業者がコーディングするという方法で行なった。コーディングも、同様にペアを組んでコードが異なった場合は話し合うという方法をとった。

4. 研究成果

(1) 文章作成力の伸び

調査対象履修者全員(全8回の授業を履修しすべての文章課題を提出した人)が文章作成力を有意に伸ばしていることが明らかとなった。〔緻密さ〕〔構成〕〔内容〕のすべての観点で有意差が見られた。フル・オンデマンド形式で、訓練された大学院生がフィードバックする授業が、履修者の文章作成力を向上させることができると分かった。

どの学年も同様に評価点が高くなっていった。レポートや論文を多く書いてきた上級学年の履修者も同様に文章作成力を伸ばしたという結果は、本大学において、文章作成指導が十分に行なわれてこなかったことを示唆していると言える。

(2) 文章作成力の伸びと属性との関連

授業前後における好き嫌いでは、好きと回答した人が有意に増加していた。得意度も有意に上がっていた。

(3) 指導者によるコメントの分類

指導者によるコメントを分類する基準を開発した。①言及授業回、②技能に対する指導の詳しさ、③肯定する評価か問題指摘の評価か、④欄外記述に対する返答有無、⑤内容に対する言及の有無。履修者によるコメントを分類する基準も開発した。

(4) 文章作成力の伸びとコメントとの関連

文章作成力が伸びた履修者群とあまり伸びなかった履修者群との間で、付与されたコメントの種類での有意な差は見られなかった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計1件)

- ①佐渡島紗織、富永敦子、太田裕子、齋藤綾子・宮本明子、早稲田大学における学術的文章作成授業の成果—大学院生が個別指導するeラーニング初年次授業—、大学教育学会、査読有、34巻、2012、119-126

〔学会発表〕(計10件)

- ①富永敦子、齋藤綾子、宮本明子、内田夕津、太田裕子、佐渡島紗織、eラーニングと指導員フィードバックによる学術的文章作成授業の効果測定、大学教育学会、2011年6月05日、桜美林大学

- ②佐渡島紗織、書き手としてのアイデンティティを形成する—大学アカデミック・ライティング・プログラムでの協働的活動を通して—、シリーズ言語文化教育研究言語教育とアイデンティティ形成—ことばの学びの連携と再編—、2010年10月15日、早稲田大学

- ③佐渡島紗織、大学院生が指導する《初年次オンデマンド授業》と《ライティング・センター》、関西大学文学部シンポジウム「アカデミック・ライティングの環境づくり」、2011年2月26日、関西大学

- ④佐渡島紗織、大熊恵理子、友員彩夏、大学院生が指導に携わる「早稲田大学アカデミック・ライティング・プログラム」、全国私立大学FD連携フォーラム、2011年7月9日、立命館大学

- ⑤佐渡島紗織、早稲田大学アカデミック・ライティング・プログラム—指導内容と指導に携わる院生の育成—、筑波大学平成23年度人文科学研究科プロジェクト、共通科目「国語」におけるTA活用による指導方法の研究、2012年1月10日、筑波大学

- ⑥佐渡島紗織、大学におけるアカデミック・ライティング指導—早稲田大学を事例として—、神戸大学創立110周年記念事業、科研費「人文科学系アカデミックライティング指導のための基礎的研究」、人文学研究科日本語*日本文化教育インスティテュート及び留学生センター共催コロキウム「アカデミックライティング教育の在り方を問う—大学にできること・留学生がすべきこと—、2012年3月2日、神戸大学

- ⑦佐渡島紗織、早稲田大学ライティング・プログラムの実践と成果、国立国語研究所共同研究プロジェクト「テキストの多様性を捉える分類指標の策定」研究発表会、2012年6月25日、はこだて未来大学

- ⑧佐渡島紗織、全学で取り組むアカデミック・ライティング指導—早稲田大学を事例として—、第15回 熊本大学 大学教育機能開発総合研究センター21世紀型大学教育セミナー「ライティング指導の必要性」、2012年9月28日、熊本大学

- ⑨佐渡島紗織、大学におけるライティング教育の意義と方法—早稲田大学での取組みと成果より—、広島大学ライティングセンター設置準備講演会、2013年2月5日、広島大学

- ⑩佐渡島紗織、早稲田大学アカデミック・ライティング・プログラム—「学術的文章の作成」授業とライティング・センター—、龍谷大学FDサロン、2013年2月25日、龍谷大学

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

「早稲田大学アカデミック・ライティング・プログラム」

<http://www.cie-waseda.jp/awp/jp/wc/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐渡島 紗織 (SADOSHIMA SAORI)
早稲田大学・留学センター・准教授
研究者番号：20350423

(2) 研究分担者

太田 裕子 (OTA YUKO)
早稲田大学・オープン教育センター・助教
研究者番号：50434353

富永 敦子 (TOMINAGA ATSUKO)
早稲田大学・人間・科学学術院
研究者番号：60571958

Doyle 綾子 (DYLE AYAKO)
早稲田大学・オープン教育センター・助手
研究者番号：80595835